

市民意識調査の結果（速報値）

■調査概要

調査目的	珠洲市復興計画の策定において、市民の現状、復興に関する考え方を取り入れるため、生活全般の状況、お住まいの再建意向、お仕事の状況、まちづくりに望むこと等を把握する。
対象世帯	珠洲市の全世帯
調査期間	珠洲市にお住まいの方 2024（令和6）年6月25日～7月16日 珠洲市外にお住まいの方 2024（令和6）年8月2日～8月19日
配布数・回収数	珠洲市にお住まいの方 郵便局による配達地域指定郵便 4,476 票 市内避難場所 370 票 計 4,846 票 速報値は7月19日までに入力 1,590 票（ネット回答192票）32.8% ※珠洲市外にお住まいの方には1,200票の配布を予定

■結果概要

1. 回答者世帯の属性

①世帯主の年齢

	件数	割合
39歳以下	47	3.0%
40～59歳	328	21.0%
60～74歳	629	40.3%
75歳以上	556	35.6%
全体	1560	100.0%

②世帯主の性別

	件数	割合
男性	1207	76.6%
女性	359	22.8%
その他	1	0.1%
答えたくない	9	0.6%
全体	1576	100.0%

③地震発生時点のご住所

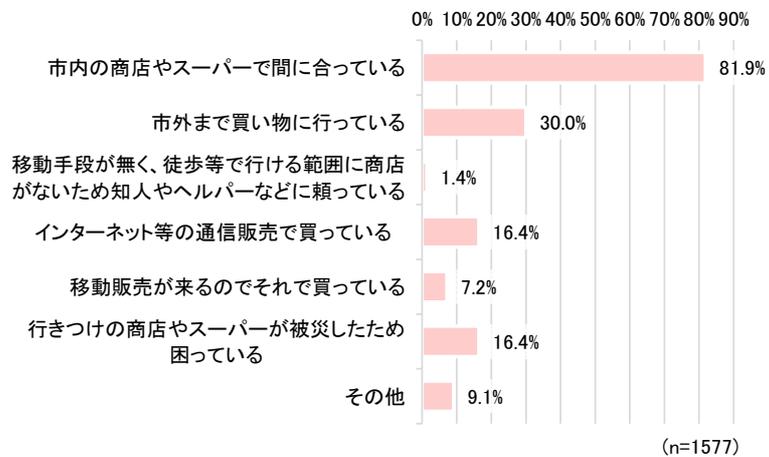
	件数	割合
宝立	246	15.7%
上戸	178	11.4%
飯田	166	10.6%
若山	200	12.8%
直	122	7.8%
正院	123	7.9%
蛸島	124	7.9%
三崎	267	17.1%
日置	68	4.3%
大谷	71	4.5%
全体	1565	100.0%

2. 被災後の世帯の生活全般

①買物はどうされていますか

(すべてに○)

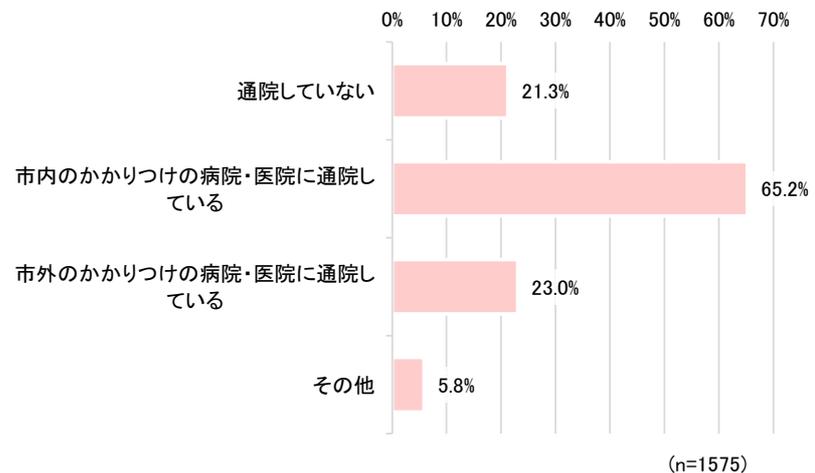
- ・約8割の市民は市内の商店やスーパーで間に合っていると回答。
- ・商店やスーパーが被災したため困っていると回答した世帯は約16%。



②通院はどうされていますか

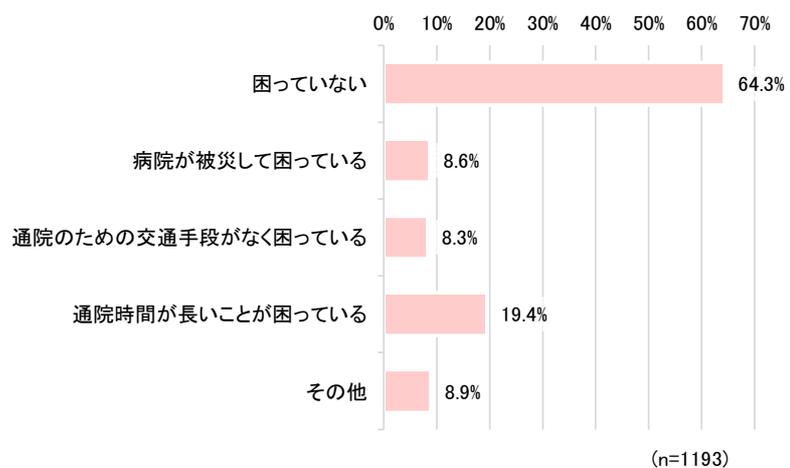
(すべてに○)

- ・通院していない世帯は約2割である。
- ・市内のかかりつけの医療機関に通院している世帯は約65%。
- ・市外に通院している世帯は23%。



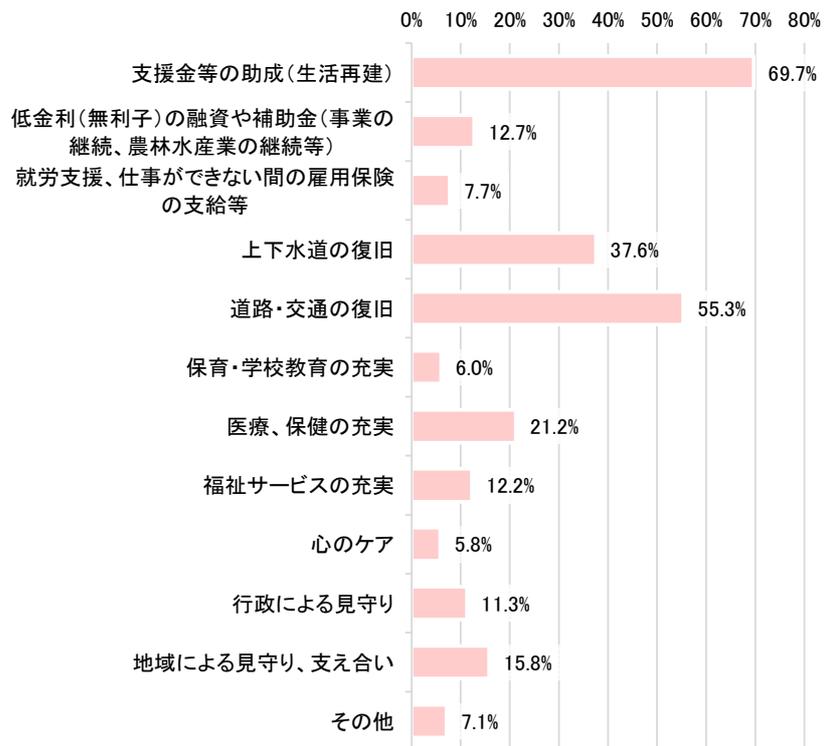
③通院にあたりお困りのことはありますか。(通院されている方)

- ・困っていないと回答した世帯は約64%。
- ・通院時間が長いことが困っていると答えた世帯は約19%。



④住宅再建以外で震災以前の生活に戻るために必要な支援や対策は何ですか。(主なもの3つまで)

- ・支援金等の助成が最も多く約70%、次いで、道路・交通の復旧が約55%、上下水道の復旧が約38%。
- ・医療、保健の充実(21.2%)や、地域による見守り、支え合い(15.8%)を回答する世帯も多い。

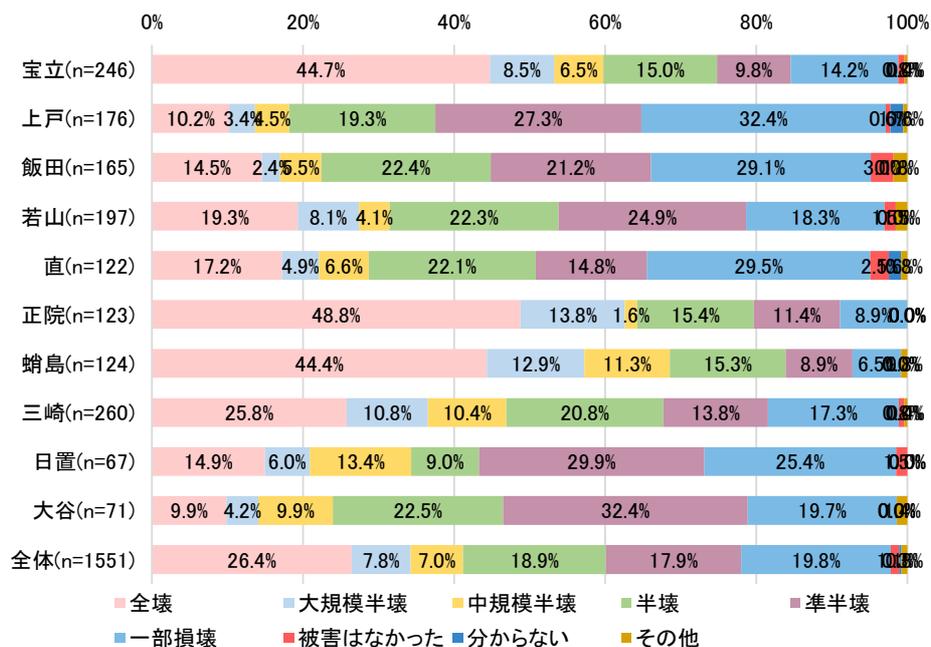


(n=1462)

3. お住まいについて

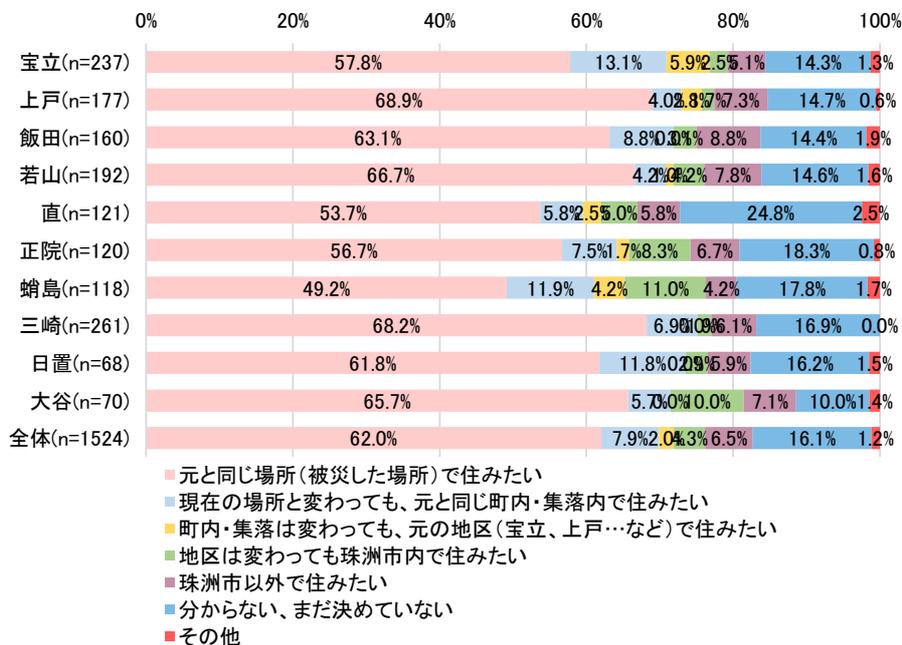
①ご自宅の被災状況をお答えください。

- ・全壊～半壊までの割合が高い地区は、蛸島(83.9%)、正院(79.7%)、宝立(74.8%)、三崎(67.7%)である



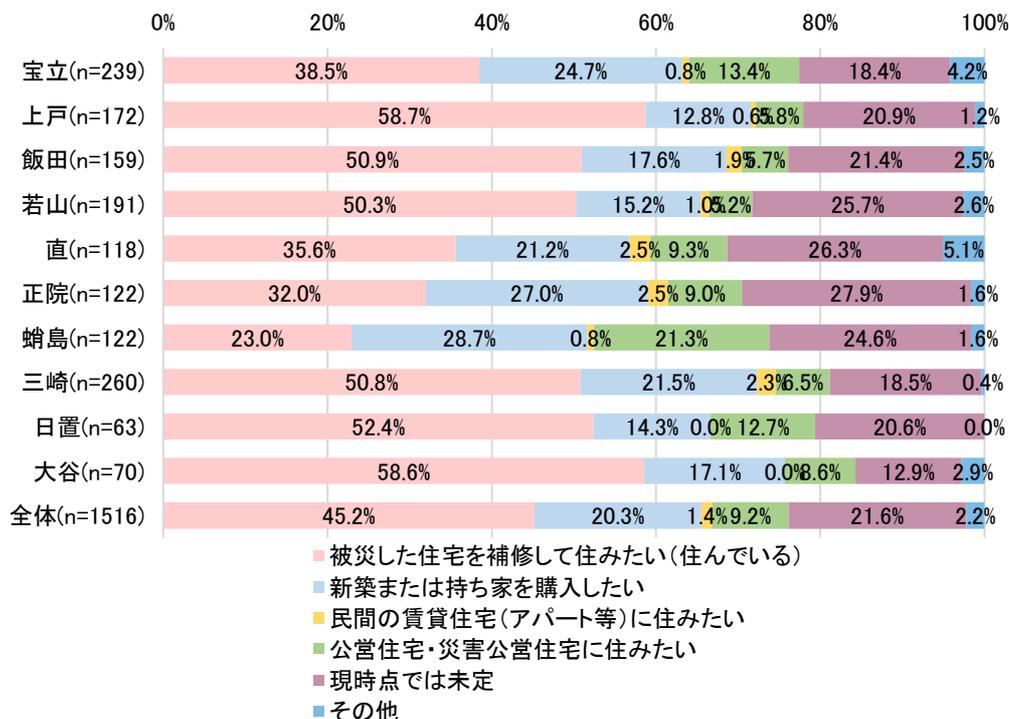
②将来のお住まいについて、現在のお考えはどれですか。(1つに○)

・全体で、「元と同じ場所で住みたい」が62%、「元と同じ町内・集落内で住みたい」が約8%であり、約7割は、元の場所または同じ町内・集落内で住みたいと考えている。

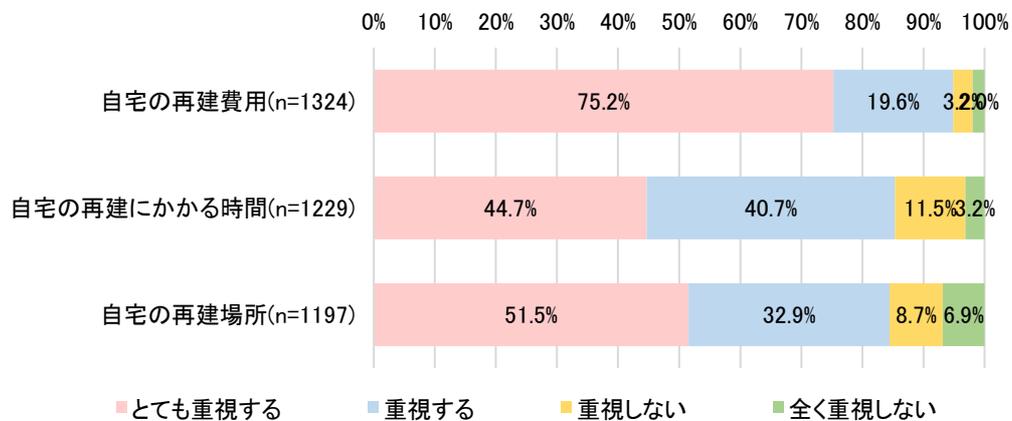


③将来のお住まいについて、あなたの思いに最も近いものはどれですか。(1つに○)

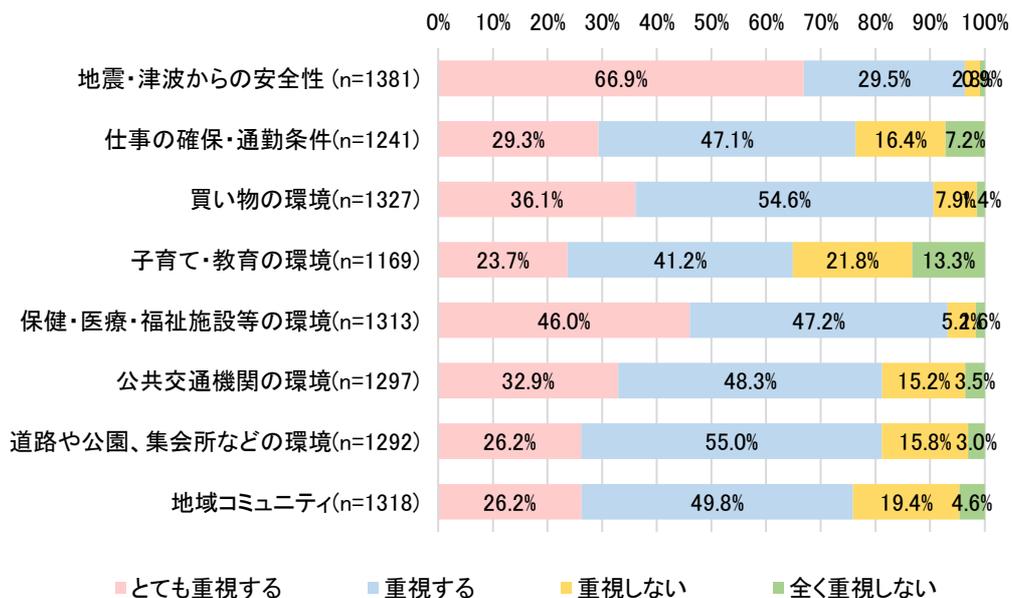
・全体で、「被災した住宅を補修して住みたい」が約45%、「新築または持ち家を購入したい」が約20%、「現時点では未定」が約22%である。
 ・蛸島では公営住宅・災害公営住宅へのニーズが高く、正院は未定の世帯が多い傾向にある。



④お住まいの再建について、それぞれに関し、どれくらい重視されるかお答えください。
 ・再建費用に関し「とても重視する」が約75%と高いが、全項目で重視する人が多い。



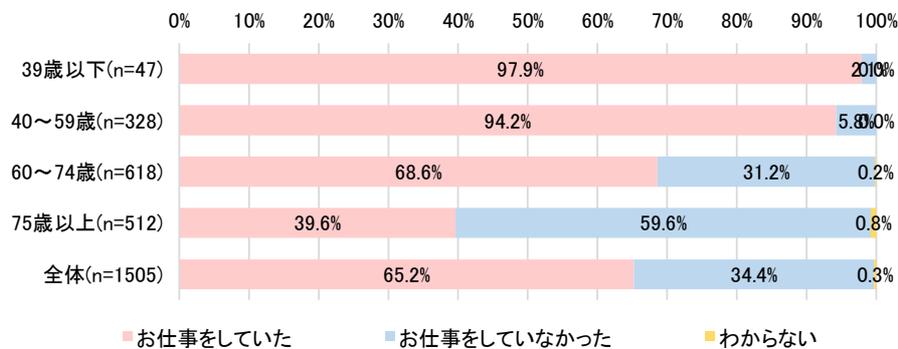
⑤お住まいの場所を考えるにあたり、それぞれに関し、どれくらい重視されるかお答えください。
 ・「とても重視する」の回答割合が高い項目は、地震・津波からの安全性 (66.9%)、保健・医療・福祉等の環境 (46.0%)、買い物の環境 (36.1%) である。



4. お仕事について

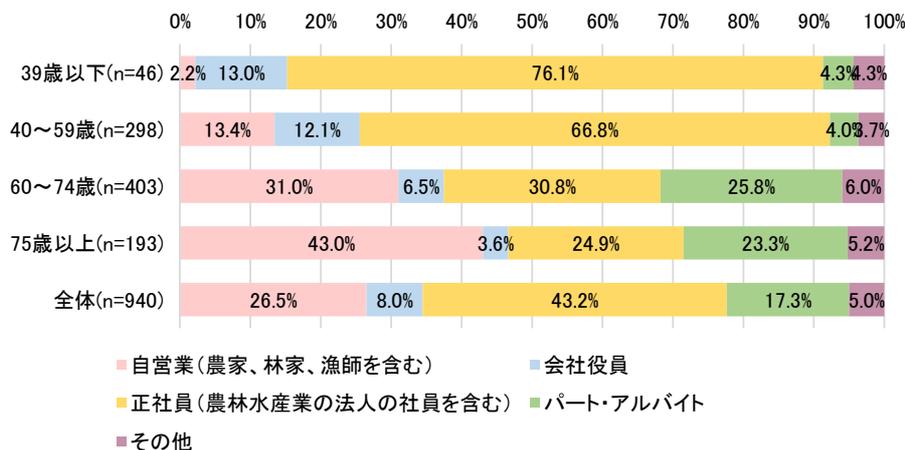
①地震発生前、お仕事をされていましたか（世帯の中で、主な収入を得ている人）。

・世帯主が59歳以下の世帯では、ほぼすべての世帯がお仕事をされている。



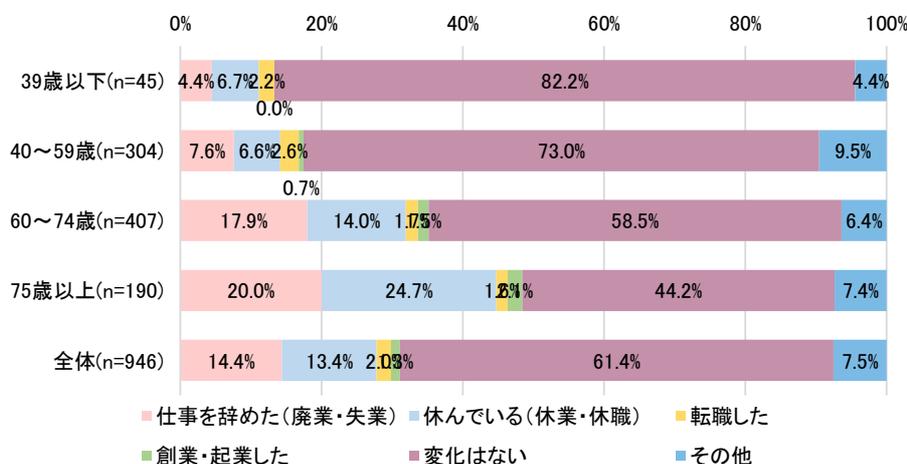
②地震発生前のお仕事の形態をお答えください。（お仕事をしていた方、1つに○）

・世帯主が59歳以下では正社員が多く、60歳以上では自営業の割合が高くなる。



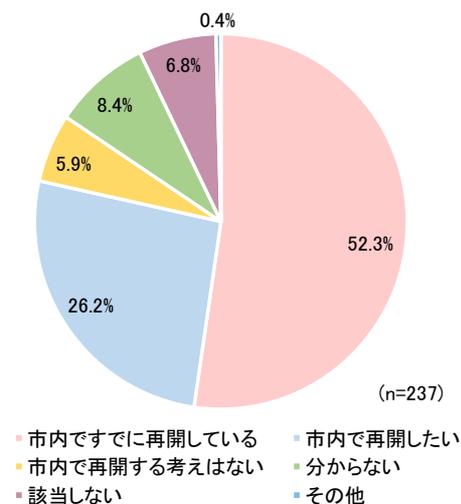
③地震前後であなたの就業形態に変化はありましたか。（お仕事をしていた方、1つに○）

・世帯主が59歳以下では「変化がない」が大半を占め、60歳以上では「仕事を辞めた」「休んでいる」の割合が多くなる。



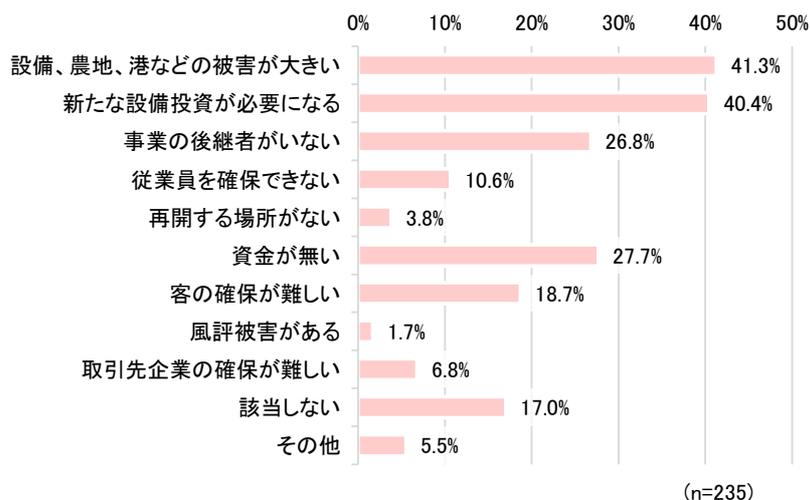
④地震発生前、珠洲市内で自営業、農林漁業を営んでいた方にお伺いします。珠洲市内で事業を再開したいと思いますか。

- ・「市内ですでに再開している」が約52%、「市内で再開したい」が約26%である。



⑤地震発生前、珠洲市内で自営業、農林漁業を営んでいた方にお伺いします。珠洲市内で事業を再開するうえでの課題は何ですか。(主なもの3つまで)

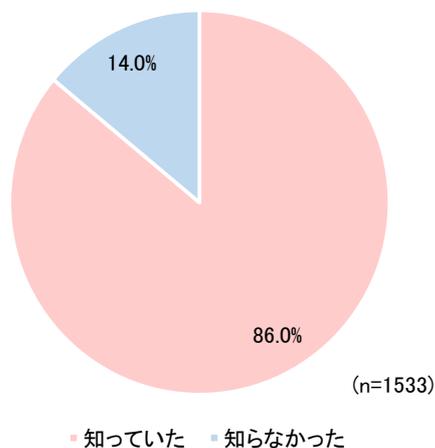
- ・「設備、農地、港などの被害が大きい」「新たな設備投資が必要になる」が4割を超えている。
- ・次いで「資金が無い」が約28%、「事業の後継者がいない」が約27%である。



5. 防災に対する備え、考え方

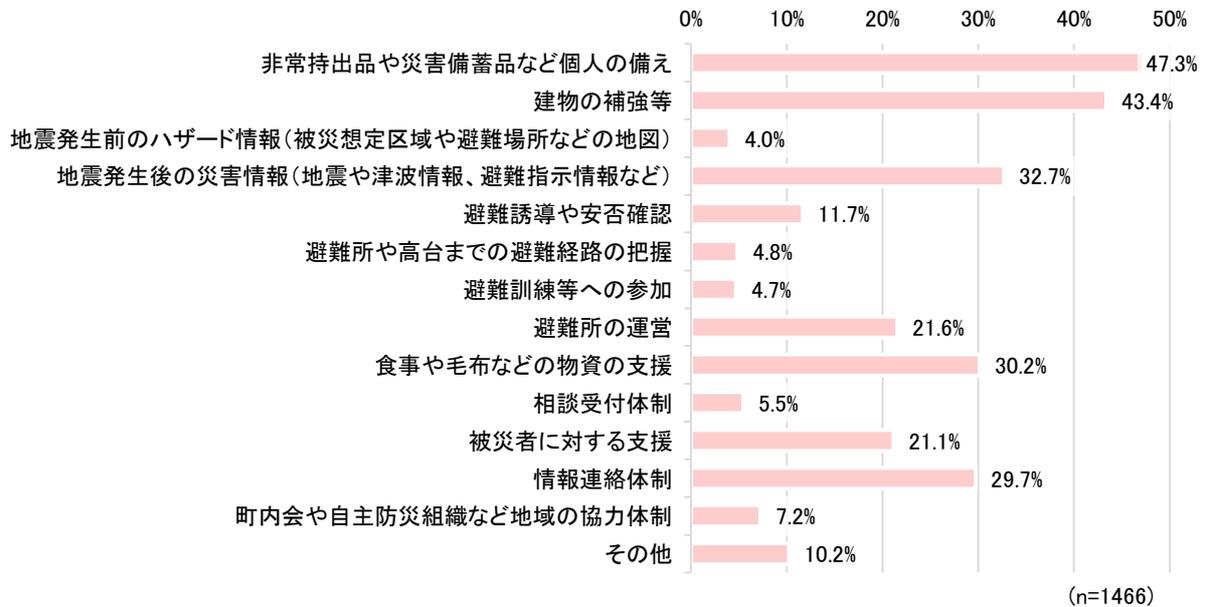
①地震発生時(令和6年1月1日16時10分)に、あなたはお住まいの地域にある指定避難所を知っていましたか。

- ・避難所を知っていた割合は86%と高い。



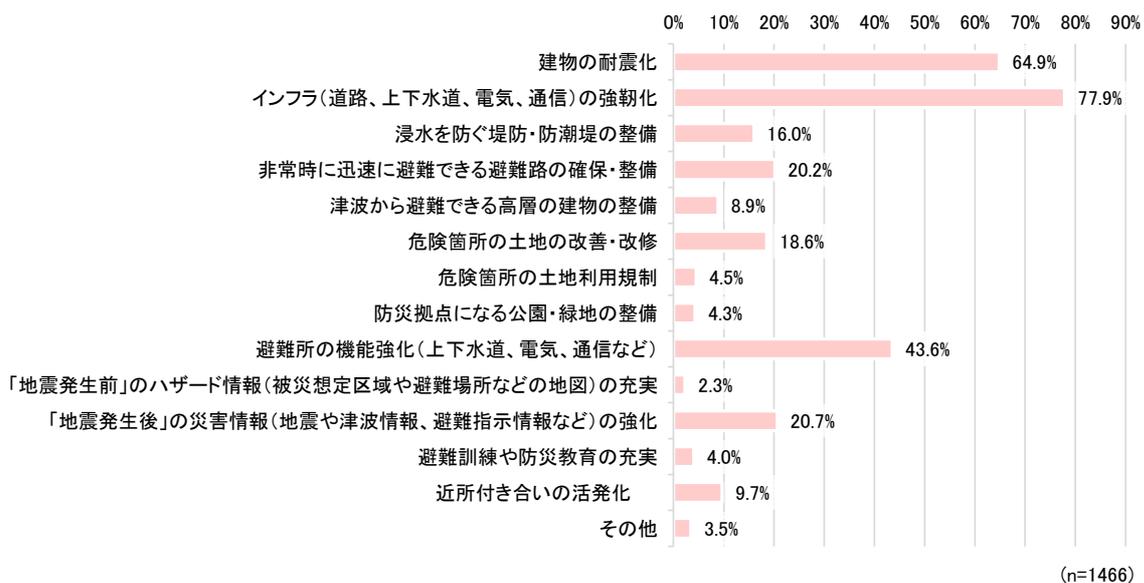
②あなたは今回の震災で、不足、不十分だと思ったことはありますか。(主なもの3つまで)

- ・「非常持ち出し品や災害備蓄品など個人の備え」が約47%と最も多く、次いで「建物の補強等」が約43%である。
- ・「地震発生後の災害情報」(32.7%)、「食事や毛布などの物資の支援」(30.2%)、「情報連絡体制」(29.7%)を挙げる市民も多い。



③今後、珠洲市を災害に強いまちとするため、どのような防災対策が重要だとお考えですか。(主なもの3つまで)

- ・「インフラ(道路、上下水道、電気、通信)の強靱化」(77.9%)、「建物の耐震化」(64.9%)、「避難所の機能強化(上下水道、電気、通信など)」(43.6%)の割合が高い。
- ・次いで「地震発生後の災害情報の強化」(20.7%)、「非常時に迅速に避難できる避難路の確保・整備」(20.2%)である。



6. 復興まちづくり

①今後5～10年程度の珠洲市の振興にむけ、復興まちづくりに何を望まれますか。(主なもの3つまで)

- ・「上下水道の強靱化」(51.0%)が最も多く、次いで「道路の強靱化」(42.8%)、「公営住宅整備、住宅再建への支援」(34.5%)である。
- ・「災害に強いまちづくり」(31.6%)、「電気、通信などの強靱化」(30.0%)を望む声も多い。

